

2016年12月 文京区立森鷗外記念館編集・発行(年4回発行)



# 文京区立 森鷗外記念館NEWS

## No.17



目次 ● 巻頭コラム「鷗外と小倉の歴史」今川英子(北九州市立文学館館長)／展示会場から／  
地域情報／展示のお知らせ コレクション展「賀古鶴所という男／一切秘密無く交際シタル友」  
／展示報告／論考「文づかひ」森鷗外自筆原稿―推敲の跡をたどって― 壇原みすず(大阪樟  
蔭女子大学准教授)／活動報告／カフェ便り／これからの催しもの／編集後記



# 巻頭コラム 鷗外と小倉の歴史

今川英子(北九州市立文学館館長)

鷗外が小倉に赴任してきたころ、明治三十年代の北九州はどのような状況であったか。  
着任した明治三二(一九〇〇)年六月は、二十世紀を前に、日本がようやく近代国家としての形を整え、日清戦争を経て、富国強兵、殖産興業を實踐していた時期ともいえる。北九州はまさにそれを具現化しており、村・町から近代都市へと移行する時期であった。

明治三二年、門司港が特別輸出港として指定され、さらに筑豊炭田からの石炭の運搬、輸送は多数の労働力と港湾施設、鉄道が必要とし、一気に開発が加速された。三四年一月の官営八幡製鐵所開所式には鷗外も参列。明治三十年代前半の北九州を象徴する事柄としては、門司、若松港の整備、軍都小倉の確立、八幡製鐵所開業の三つがあげられるが、鷗外はその著しい発展の光景を目の当たりにした。

「小倉日記」によれば、三二年六月一日夕刻車身新橋を発ち、翌日大阪に一泊、山陽鉄道が下関まで開通していなかったため徳山から汽船に乗り換え、一九日の午前三時門司港上陸のち九州鉄道で小倉停車場に下車、着任する。当時の小倉は、戸数四千、人口は三万にも満たない旧城下町で、まだ小倉町と言っていた(翌年、小倉市となる)。

眼前の急激な都市化よりも地誌や歴史に関心が深い鷗外は、着任早々、部下の吉田成太郎二等軍医に土地の地図の作成を求め(六月二九日)。また、郊外の篠崎八幡に社司を訪ね、豊前の史跡について尋ねている(九月十一日)、後に小倉周辺の伝説や人物に関して調査したことを、地元新聞に度々寄稿することになる。例えば、鍛冶町旧居から東に見える足立山について、この山にちなむ和氣清麻呂伝説を考証して「和氣清麻呂と足立山」を門司新聞に掲載した。

豊前小倉は、太宰府官道に沿って九州の最北端にあり、白砂青松の企救の高浜は古くから万葉にも詠まれたが、城が造られてからは城下町として発展した。

最古の小倉城記録は文永年間(一二六五年前後に確認できるが、この時代は「城」というより館とか壘の類である。戦国時代の天正のころには、高橋三河守、次いで毛利志岐守が居城した。現在遺っている城址は、関ヶ原の論功で、丹後宮津

から豊前中津城に封ぜられた細川越中守忠興が、小倉の九州の要地としての重要性に着眼、慶長七(一六〇二)年に、大規模な城郭の造営を行ったものである。同一三年、父幽斎が飛鳥井雅庸と豊前に下向し、落成した小倉城本丸で蹴鞠や和歌の会を催した。後年、鷗外の勤務した白亜二階建ての師団司令部は、この城跡本丸の中央に位置する。

慶長一七(一六二二)年、諸国修行中の宮本武蔵が小倉藩の剣術指南役佐々木小次郎と城下沖の舟島で決闘する。後年養嗣子の伊織が建てた武蔵の碑は、明治のころは城下の延命寺にあり、高さ十二尺、一千百十一字の碑文を、鷗外は三度訪れて全文を筆写した(三三年五月五日)。

忠興は藩治を嗣子忠利に譲り、細川は寛永九(一六三二)年には肥後熊本藩に転封となる。この二代の豊前経営は三十年余りであったが、当初好意を示したキリシタンのその後の弾圧の厳しさを、「小倉藩人畜改帳」等に堅固な藩政の特色をみることが出来る。後の「阿部一族」は、小倉時代に写本させた「忠興公御以来御三家殉死之面々」などに基づくものとして知られている。

細川の後、播磨明石から小笠原忠貞が九州の外様大名の目付役、九州探題の格で小倉十五万石の新領主として入府し、以来幕末に及ぶ。忠貞は晩年仏道に心を寄せ、明国渡来の黄檗宗の名僧即非を敬して足立山山麓に広寿山福聚寺を創建。鷗外はこの寺の由緒を調べ、「即非年譜」として福岡日日新聞に寄稿、小倉藩文化に影響を与えた和尙を讃えた。

二代忠雄の寛文年間に伊達騒動が起き、小笠原家預かりとなった伊達宗興は幽居三十年のち安国寺に葬られた。鷗外はこの寺の玉水俊誠と親交を結び、福岡日日新聞に「小倉安国寺の記」、門司新聞に「小倉安国寺古家の記」を寄稿、前者は同寺の和尙を列伝、後者は奥州からの配流者を叙した。こうした鷗外の歴史探案と執筆は、後の小倉郷土会に受け継がれる。その後、幕末に至り、第二次長州征伐の小倉口の戦いで幕府方聯合軍が敗走すると、小倉藩は城を自焼して撤退、慶長二(一八六〇)年八月、他藩に先駆けて小倉藩は潰滅した。それから今年は一五〇年である。

明治四年の薩藩置県により小倉県が置かれ、九年に福岡県治となる。

その間、明治四年に西海道の鎮台本営が、八年に歩兵十四聯隊が置かれ、翌九年の秋月の乱、十年の西南戦争に歩兵少佐乃木希典が二代目聯隊長心得として出兵する。

ドイツ時代の親交から小倉赴任の失意の鷗外を新橋駅頭で見送った乃木の、後年の自刃と鷗外の「興津彌五右衛門の遺書」の執筆は、鷗外が小倉を去って十年後のことである。

明治十八年には第十二旅団司令部が開設され、その後六師団から十二師団まで拡張、同時に都府府条例の制定により西部都府府が小倉に開設、三十年、山階元治中将が着任する。

三一年十月、陸軍中将田村寛一が小倉師団の第一代師団長として着任、翌月、師団司令部の庁舎が落成する。当時の地元新聞に「二師団の所在地は、恰も旧藩時代に於ける五十万石の城下に等比す、其経済上社会上の關係に於て優に一万戸五万口の都會を存せしむるに足るべし」とあり、小倉師団の規模は、東京師団、大阪師団に次ぐものとも称された。

鷗外の赴任はこの開庁から七ヶ月後のこと、田村師団長急逝後、井上光師団長が着任したばかりであった。鷗外においても、新設師団の軍医部の建設はその双肩にかかっていたといっても過言ではなく、勤務の精励の様子は「小倉日記」の随所に見ることが出来る。

三五年三月一四日付で第一師団軍医部長に転補され、鷗外は二年一〇ヶ月の小倉生活に終止符を打つ。二六日午後五時五五分小倉停車場を新婚の婦人同伴で出発、駅頭には市民ら一千人が見送った。翌日夕方大阪駅で一日下車、小憩の後、夜行に乗り換えて翌朝新橋に到着、観潮楼に入る。三五年三月二八日、「小倉日記」はここで終わる。



小倉城址に遺る第十二師団司令部跡の門柱

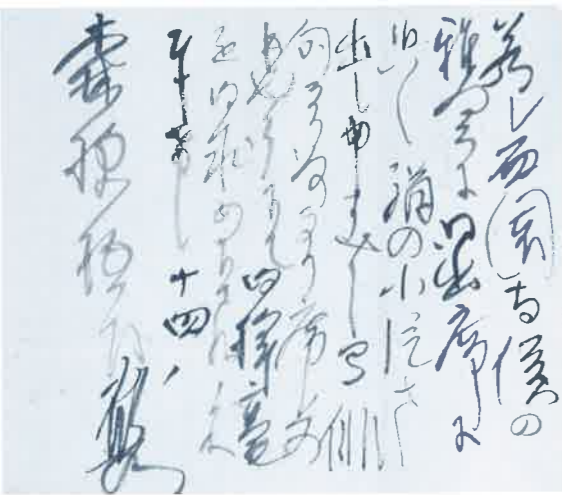
## 展示会場から

### 賀古鶴所筆鷗外宛書簡

大正5年4月14日付 [00081]

友人の賀古鶴所が鷗外に宛てた書簡です。書中にある「西園寺侯の雅会」とは、時の首相・西園寺公望が主宰した文士招待会「雨声会」のことです。この書簡が書かれた4日後の大正5年4月18日に同会が開かれ、鷗外も出席しました。

鷗外の大正5年日記には、4月30日「午後西園寺公望の第を訪ふ。賀古鶴所のために書を請ひしがゆ系なり」、5月1日「西園寺公望匾額を書して余に贈り、且俳句の短冊二葉を寄す。短冊は賀古に伝致せむとす」と記されています。



若し西園寺侯の雅会に御出席に候ハハ細の片さし出し申すべく候間俳句なり何なり席上のもやうにて御揮毫を御求め下され度奉希候十四日鶴所森様下

### 西園寺公望書

「才学識」扁額 [00024]



当館は、西園寺公望が揮毫した「才学識」扁額を所蔵しています。この扁額は、鷗外の自宅「観潮楼」に掛けられていました。鷗外の長女・茉莉の家庭教師をしていた後藤末雄(弘文学者)は「鷗外先生を顧みる」と題した随筆で、「いつか鷗外先生は此の額を指して、「これはは困つたよ。僕の友人が是非、西園寺さんの書が欲しいと言ふから僕がお頼みした。すると君、この通り、僕の名が入られたので、友人に遺ることが出来ない。仕方がないからこんどは事情を白状してもう一度かいて戴いたよ。」と言はれた」(「文藝春秋」昭和13年6月号掲載)と書いています。

これらの資料は、コレクション展「賀古鶴所」という男／一切秘密無ク交際シタル友」でご覧いただけます。  
\*才知と学問と識見と(唐書より)

## 地域情報

文京区内には多くの文化施設があり、施設同士でさまざまな連携事業を行っています。森鷗外記念館では、区内の複数施設と相互割引を展開！まち歩きや文化施設巡りに、お得な割引情報をご活用ください！

### 東洋文庫ミュージアム

東洋文庫は、三菱第三代当主・岩崎久彌が大正13年に設立した、東洋学の研究図書館です。東洋学分野で日本最古・最大の規模を誇り、世界でも五指に数えられます。東洋全域の歴史と文化に関するさまざまな文献を約100万冊所蔵しており、その中には国宝や重要文化財も含まれます。ミュージアムでは、従来公開していなかったこれら貴重書を展示。歴史的、美術的価値の高い資料を鑑賞することができます。併設されたレストランも、是非ご利用ください。

1月7日から4月9日までは、「ロマノフ王朝—日本人の見たロシア、ロシア人の見た日本—」展が開催されます。

### 森鷗外記念館

◆森鷗外記念館 ↓ 東洋文庫ミュージアム  
半券押印から半年以内または、鷗外パス有効期限内提示で入館料2割引  
◆東洋文庫ミュージアム ↓ 森鷗外記念館  
ショップ「マルコポーロ」領収書または名誉文庫員証または友の会会員証または東洋文庫アカデミア受講証(いずれも利用日から半年以内)提示で観覧料2割引



東京都文京区本駒込2-28-21  
開館時間 ● 10時～19時(入館は18時30分まで)  
休館日 ● 毎週火曜日(祝日の場合は、その翌平日) 年末年始  
入館料 ● 一般900円/65歳以上800円/大学生700円 中・高校生600円/小学生290円

### 弥生美術館・竹久夢二美術館

弥生美術館・竹久夢二美術館は、初代理事長・鹿野琢見によるコレクションの公開を目的に、それぞれ昭和59年、平成2年に創立されました。弥生美術館では、高島華宵をはじめとする明治・大正・昭和の挿絵画家や、雑誌・漫画・附録などの出版美術をテーマとした展示を行っています。竹久夢二美術館は、夢二が滞在した菊富士ホテルゆかりの本郷に建てられ、夢二が手掛けた日本画や装幀本、原画などを鑑賞することができます。

### 森鷗外記念館

◆森鷗外記念館 ↓ 弥生美術館  
半券押印から半年以内または、鷗外パス(有効期限内)提示で入館料100円引き  
◆弥生美術館  
半券押印から半年以内または、鷗外パス(有効期限内)提示で入館料100円引き  
◆森鷗外記念館  
半券提示で観覧料2割引



東京都文京区弥生2-4-3  
東京都文京区弥生2-4-2  
開館時間 ● 10時～17時(入館は16時30分まで)  
休館日 ● 毎週月曜日(祝日の場合は、その翌日) 展示替え期間中/年末年始  
入館料 ● 一般900円/大学・高校生800円 小中学生400円  
※上記料金で2館の観覧が可能。



# 展示のお知らせ

コレクション展

## 賀古鶴所という男

### 一切秘密無ク交際シタル友

会期●2016年12月9日(金)―2017年1月29日(日)  
 (会期中の休館日)12月29日(木)・1月3日(火)、1月24日(火)

会場●文京区立森鷗外記念館 展示室2

開館時間●10時～18時(最終入館は17時30分)

観覧料●一般300円(20名以上の団体240円)

※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料/※東京府と歴史館入館券、パンフレット(押印入)、友の会会員証ご提示で2割引  
 ※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

協力●学校法人北里研究所、森鷗外記念会



賀古鶴所著『耳之衛生』博文館 明治41年

### 「何事でも打ちあけて相談するといふ友達は生涯に一人あれば沢山だ。」

(森於菟「鷗外のことば」)

賀古鶴所(安政3年、昭和6年)は、浜松藩(現在の静岡県浜松市)藩医の長男として生まれ、東京大学医学部卒業後、陸軍軍医に任官、のちに日本における耳鼻咽喉科の基礎を築いた人物です。

賀古は鷗外の親友としても知られています。大柄で豪傑だったという賀古は鷗外よりも6歳年上でしたが、二人は東京大学医学部の学生時代に出会い、生涯親友であり続けました。その長い交際期間の中で、鷗外は自らの悩みや困難を賀古に打ち明け、賀古から助言を受けることもありました。鷗外にとって賀古は、「一切秘密無ク交際シタル友」(森鷗外「遺言」)であり、全幅の信頼を寄せることができた存在だったのです。当館には、大学を卒業した明治14年から鷗外がなくなる大正11年まで、二人が交わった書簡が250通以上残されています。その内容は、仕事、家内、政治情勢、詩歌のやり取りから他愛のない話まで多岐にわたり、二人の固い絆をそこかしこにみることが出来ます。

長きにわたり鷗外を支え、励まし続けた賀古と鷗外の深い友情は、鷗外自身に何をもちたらしめたのでしょうか。二人の間で頻りに交わされた書簡などを中心に、鷗外と賀古鶴所の友情の軌跡をたどりま。



# 展示報告

## 特別展「文として恋しく懐かしき君に―鷗外、『即興詩人』の10年―」

本展では、鷗外訳『即興詩人』の連載開始から単行本発行までの、明治25年～明治35年の10年間に着目しました。観潮楼に居を構え、日清戦争に赴くまでを第一章、帰国後から小倉に赴任するまでを第二章、小倉時代から単行本刊行までを第三章とし、日記や原稿など鷗外の自筆資料、評論や作品が掲載された書籍類で鷗外の動向を紹介しました。鷗外の活動は、文学、美術、演劇、医学とさまざまな分野にわたりますが、すべてにおいて精進実直です。成功も失敗も、充実も挫折も、あらゆる現実から目をそむけずひたむきに生きる鷗外の姿を確認することができました。

展覧会の注目作品は、安野光雅氏が鷗外訳『即興詩人』に感銘を受け、物語の舞台であるイタリアの風景を描いた『繪本 即興詩人』の原画でした。壁面に隙間なく並んだ原画20点は、瀟洒な展示室をロマンティックに彩り、鷗外が綴った愛の物語へと我々を誘ってくれました。いまではなかなか読まれることのない作品ですが、安野光雅氏によって鷗外訳『即興詩人』の世界が現代にのみがえったのです。

鷗外はアンデルセン作『即興詩人』に留学中に出会い愛読しました。30代に入ってから訳を開始し、40代を迎えた時に単行本が完成します。人生の中で変化の多い時期、鷗外の傍らには『即興詩人』があったといっても過言ではありません。『即興詩人』の翻訳作業と鷗外の人生とを重ねて考えてしまうのは、少し強引でしょうか。

―文として恋しく懐かしき君に―  
 やはり、鷗外は『即興詩人』に自身の青春期の想いを詰め込んだに違いないと思う瞬間が何度もあった展覧会でした。

協力：津和野町立安野光雅美術館、東京大学総合図書館、公益財団法人日本近代文学館、森鷗外記念館(津和野町)  
 後援：イタリア大使館観光促進部/イタリア政府観光局、テンマーク大使館



### 展覧会会期中に関連講演会を開催しました。

「熟成される(ゆめみるひと)」

森鷗外『即興詩人』翻訳の10年―(夏島上)

日時：10月23日(日)14時～15時30分

講師：須田喜代次氏(夫妻女子大学教授)

「鷗外訳『即興詩人』の影響力」(夏島上)

日時：11月5日(土)14時～15時30分

講師：小林幸夫氏(上智大学教授)



鷗外訳『即興詩人』について、翻訳過程の鷗外の状況や想い、現代にまで伝わる作品世界についてお話をさせていただきました。作品そのものを継承していくことで鷗外の想いを伝えていく人々、表現方法に影響を受け、自身の作品の中で鷗外を生かした作家たちなど、『即興詩人』の世界が連鎖と受け継がれていることなどが紹介されました。鷗外訳『即興詩人』を次に伝えるバトンが託されたような気持ちになりました。

### 関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連イベントを予定しております。申込方法は8頁をご覧ください。

#### 講演会

##### 「賀古鶴所と鷗外―兄たり弟たり―」

講師 宗像和重氏  
 (早稲田大学教授、森鷗外記念会常任理事)  
 日時 2017年1月22日(日)  
 14時～15時30分  
 会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室  
 定員 50名(事前申込制)  
 料金 無料  
 申込締切 1月6日(金)必着

#### 朗読会

##### 「賀古鶴所との書簡を読む」

講師 岩井正氏(元NHKアナウンサー)  
 日時 2017年1月29日(日)  
 14時～15時30分  
 会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室  
 定員 50名(事前申込制)  
 料金 800円  
 申込締切 1月13日(金)必着

#### ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。  
 2016年12月21日、  
 2017年1月11日、25日  
 いずれも水曜日14時～(30分程度)  
 申込不要(展示観覧券が必要です)

#### 刊行予定

『文京区立森鷗外記念館所蔵  
 森鷗外宛書簡集1 賀古鶴所』

監修 宗像和重氏

(早稲田大学教授、森鷗外記念会常任理事)

当館所蔵の賀古鶴所筆書簡約130通の翻刻を紹介いたします。(2017年1月発売、文京区立森鷗外記念館刊)

#### 同時開催

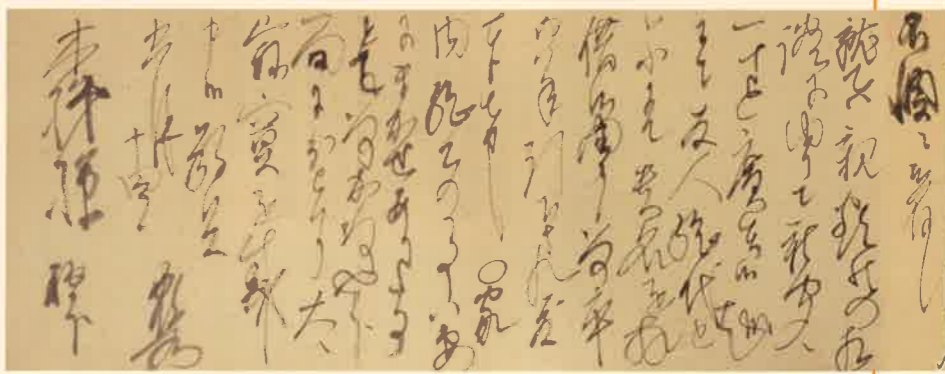
ミニ企画展示

文の京ゆかりの文化人顕彰事業関連

上田敏没後100年

「海潮音の韻」上田君と僕

会場 文京区立森鷗外記念館 展示室1  
 ※コレクション展開催中のコーナー展示です。通常展観覧券でコレクション展とともにご覧いただけます。



賀古鶴所筆鷗外宛書簡 大正6年5月14日付(部分)  
 賀古の妻・啓子の死に際して、死亡広告の友人総代に鷗外の名前を拝借することを伝えている。



# 『文づかひ』森鷗外自筆原稿

## 推敲の跡をたどって

檀原みずす (大阪樟蔭女子大学准教授)

『文づかひ』は、明治二十三年十二月に執筆され、翌年一月、「新著百種」第十二号に発表された。その後『美奈和集』、『改訂水沫集』、『塵泥』、『縮刷水沫集』などの著作集に収録された。『舞姫』と同様、収録毎に推敲されている。鷗外のドレスデン滞在時の経験を生かした作品で、『舞姫』『うたかたの記』と合わせて『ドイツ三部作』と呼ばれている。

文京区立森鷗外記念館コレクション展「舞姫―恋する近代小説」(平成二十八年七月一日〜九月二十五日)では、学校法人跡見学園所蔵の『森鷗外自筆舞姫草藁』と大阪樟蔭女子大学所蔵の『文づかひ森鷗外自筆原稿』とが特別公開された。ドイツ三部作中の二作が並ぶ史上初の展覧会として大きな話題となった。『舞姫草藁』の意義については、山崎一頼氏の論考が『文京区立森鷗外記念館NEWS No.15』に掲載されているので、ここでは『文づかひ』原稿について解説したい。

『文づかひ』森鷗外自筆原稿は無罫の和紙二十四枚に毛筆で書かれ、薄手の和紙二枚に裏打ちされて和綴じの形になっている。端麗、柔和な筆跡から几帳面な鷗外の人柄が窺え、その筆勢からは原稿を書く鷗外の息づかいさえ感じられる。署名は「鷗外漁史」である。

豪華な龍村織の表紙に「文づかひ 森鷗外自筆原稿」と記した題簽が貼られ、黄八丈の

表装による秩に入れて桐箱に収められている。小金井喜美子著『鷗外の思い出』の特製版の表紙と同じ黄八丈である。製本はおそらく池上浩山人であろう。箱書きには鷗外の次女の筆で「文づかひ 亡父森鷗外の自筆原稿なり 昭和五十八年九月三日 小堀杏奴(落款)」と記されている。

この原稿の扉には鷗外が森田思軒に宛てた批評依頼の書付が添えられている。そこには「来二十五日發行 即日御批評を、ふり度 特に今より御委頼申上候 二十三日 鷗外 思軒様侍史」と記され下に原田直次郎の手によるスフィンクスとピラミッドを配した絵にピンで蝸牛の画を留めた意匠の『新著百種』表紙見本が貼り付けられている。この書付は、白石家森田思軒の遺児下子の嫁(先)に残されていたものである。明治二十四年一月二十四日に鷗外が『文づかひ』の批評を依頼するため思軒宅を訪問したが思軒は不在であったため、この書付と一緒に『文づかひ』原稿を置いて帰ったという経緯について、森田思軒は『郵便報知新聞』の批評の中で記している。

『文づかひ』の原稿は一行の字数が二十五字、一丁の行数が表・裏とも十一行に揃っている。文中には、二箇所区切り符号※※※があり、それによって全篇が三部に分けられている。漢字には多くのルビが付してある。例えば平仮名で、獨逸会、將校、

## 活動報告

### 「鷗外と舞姫の世界」

9月9日、水月ホテル鷗外荘(台東区池之端)とのコラボレーションにより、特別イベント「鷗外と舞姫の世界」を開催しました。

水月ホテル鷗外荘は、鷗外が最初の妻・赤松登志子と暮らしていた場所であり、鷗外の代表作のひとつである『舞姫』を執筆した日本間(現在は「舞姫の間」)が当時のまま残っています。



鷗外荘女将の中村みさ子氏から「舞姫の間」について名調子にてご説明いただいた後、当館名誉館長で、作家の加賀乙彦氏による講演が始まりました。



講演の後には、ホテル内の富士の間に移動し、加賀氏を囲みながら鷗外荘特別メニューを談笑とお楽しみいただきました。中でも、鷗外にちなんだ料理であるビーフシチューは皆さん心躍る一品だったようです。

### 文の京ワークショップ

#### 来たれ俳句女子！俳句男子！

#### 「チームde俳句連作」

10月9日、初の東京大学俳句会とのコラボ企画「チームde俳句連作」を行いました。

俳人の佐藤文香さんと、東京大学俳句会・青木ともじさんを講師に迎えての句会です。中学生から、大学生までの俳句女子、俳句男子たちが、3つのグループに分かれ、しりとり形式でチーム毎に15句を作る、という全く新しい句会を楽しみました。

最初の句は鷗外の「月に来て又この塔にのぼらばや」。次の人は「や」から句をスタートさせます。もしも前の句の最後が漢字一文字であればその一文字から次の句が始まるというルールです。しりとり以外にも、季節の指定や、全体で5つ出題されるお題等、複数の条件のもと、1句3分で各チーム15句ずつつくっていききました。



最後に、チーム毎に、他のチームの各句についての講評を行い、15句のまとまりと



大阪樟蔭女子大学所蔵

穹窿、無禮、瘦肉、響應など。また外国語読み漢字(胸當、腰帶、明色、座敷、小部屋、木端など)には片仮名のルビが振られ、鷗外がどのように読ませようと考えていたのかが分る。また外国語の固有名詞はカタカナで表記され、人名には傍線、地名には二重傍線が施されている。

全編にわたって鷗外自身による加除訂正のあとが見られる。特徴としては本文の訂正箇所には紙片を貼って上から書き直した部分が多い。貼紙の下に書かれた原文も読み取れ、推敲の跡をたどることが出来る。作品の内容に関わるような大幅な変更はなく、語句に彫琢をほどこした表現となっている。途中で和紙を切り貼りして文章を縫いでいる部分も認められる。『舞姫』原稿のように欄外までの書き込みはなく墨で直に訂正した部分は極めて少ない。鷗外は印刷所への配慮からか、あるいは関係者の内覧に備えて『文づかひ』原稿を奇麗に整えたものと考えられる。

この自筆原稿は影印本として精巧に複製刊行(平成元年三月、限定三五〇部)されている。見た目の印象からは「下書きがあったのではないか」という推測もされていたが、原稿には編集者による割付指示や改ページ記号、文選工・植字工も兼ねたと思われる編集人「悦」と印刷人「松」のサインなども散見され、書き下ろしの入稿原稿であることが考えられる。

して最も優れていたチームを投票で決めました。チーム戦ではありませんでしたが、勝負の行方より、年齢も所属も異なる若者同士がとてもしそうに、そして真剣に言葉に向き合う姿が印象的でした。鷗外が観劇機会を催していたこの地で、新たな世代の交流が生まれた2時間でした。

### 『文豪ストレイドッグス』

#### コラボレーション企画開催



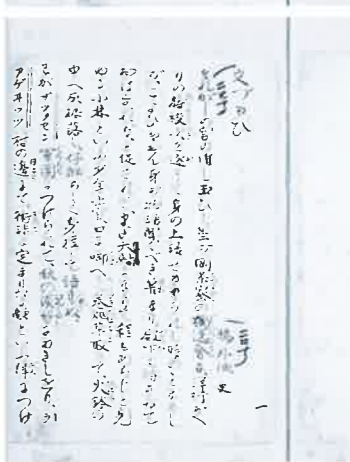
©2016 KA / SH



10月17日から12月4日までの期間、文豪の名前のついた登場人物が活躍する人気漫画『文豪ストレイドッグス』(朝霧カフカ原作・春河35漫画/KADOKAWA)、通称「文スト」とのコラボレーション企画を行いました。

2階図書室前では、『文スト』に登場する鷗外作品や、鷗外とゆかりの深い文豪、関連資料の解説パネルを展示。華やかな「文スト」イラストと共に、お楽しみいただきました。期間中は、田端文士村記念館と連携し、千駄木・田端間を結ぶ特製マップを配布。『文スト』ファンだけでなく、文学散歩を楽しむ方にも好評でした。また、キャラクター缶バッジや、オリジナルしおりのプレゼント企画には大変大きな反響がありました。

漫画をきっかけに来館された方も、同時開催の特別展「文」して恋しく懐かしき君



大阪樟蔭女子大学所蔵

に間違いはない。また、本文には見せ消しや抹消などによる訂正部分があり、そのほとんどが文法語法の修正となっているのは興味深い。

『文づかひ』原稿が活字化された『新著百種』の巻頭には、落合直文の書簡が木版刷で掲載されている。そして落合が『文づかひ』の文法などを訂正したという伝聞的な話が付随していた。明治の近代文体として言文一致が唱えられ日本文法の揺籃期にあつて、鷗外の文体観は『言文論』に表わされている。これは落合直文の提唱する「新国文」の本旨を生かしたものである。『文づかひ』原稿に見られる文法語法の修正について鷗外の規範意識を探ってみると、落合直文・小中村義象著『中等教育日本文典』(明治二十三年十二月)に拠っている可能性が高く、鷗外が落合直文の影響のもとに新しい和文体を削り出そうとしたと考えられる。

『文づかひ』は、『舞姫』と同様に作者自身によって何度も改訂されている。それぞれの推敲の跡をたどると文法面の訂正に関しては時代時代の国語規範に準拠しながら文体を修正していった鷗外の規範意識の高さを知ることが出来るだろう。

『文づかひ』森鷗外自筆原稿は、小説の創作過程における作家の苦心のあとを窺い知るのに格好の手がかりとなる貴重な資料なのである。

に「をじっくり観賞ください、本来の鷗外について、また福沢諭吉や尾崎紅葉など、『文スト』に登場する人物との実際の接点などを、興味深くご覧になっていました。



### カフェ便り

モリキネカフェでは昨年引き続きドイツパンの店・タンネのシュトレンを販売しています。

シュトレンはドイツの菓子パンで、ドライフルーツや香ばしい刻みアーモンド、ラム酒や数種のスパイスが入っており、独特の風味を味わうことができます。ドイツではクリスマスを待ちながら、シュトレンを薄くスライスして食べていく習慣があります。時間の経過とともに味がなじみ、味わいの変化を楽しむことができます。クリスマスのお土産にいかがでしょうか。また、店内でもお召し上がりいただけますので、この機会にぜひ味見してみてください。コーヒーとの相性も抜群です。



他にもカフェでは「文」の京ゆかりの文人銘菓を販売しています。文人銘菓は、鷗外をはじめとした文京区ゆかりの文人にちなんだお菓子を、区内の菓子店が創作したものです。カフェに立ち寄った際には、ぜひお試しください。



# これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせ下さい。

- ★応募多数の場合抽選とさせていただきます。
- ★有料のプログラム参加者はイベント当日にかぎり、展覧会観覧料が免除となります。
- ★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

1月19日(木) 10:00 ~ 17:30 <b>鷗外誕生日記念行事◎</b> 鷗外の155回目の誕生日を記念して、無料で展覧会を観覧いただけます。
1月22日(日) 14:00 ~ 15:30 展示関連講演会 <b>「賀古鶴所と鷗外一兄たり弟たり」</b> 講師：宗像和重氏(早稲田大学教授) 会場：講座室 料金：無料 定員：50名 申込締切：1月6日(金)
1月29日(日) 14:00 ~ 15:30 朗読会 <b>「賀古鶴所との書簡を読む」</b> 朗読：岩井 正氏(元NHKアナウンサー) 会場：講座室 料金：800円 定員：50名 申込締切：1月13日(金)
2月18日(土) 14:00 ~ 15:30 文の京ワークショップ 読書会 <b>「樋口一葉『十三夜』を読む」</b> 講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場：講座室 料金：500円 定員：15名 申込締切：2月3日(金)

1月28日(土) 10:00 ~ 16:00 <b>鷗外誕生日記念イベント「鷗外さんがいる」◎</b> 出演：中野成樹+フランケンズ 会場：全館 料金：無料(展示室に入るには展示観覧券が必要です) 展示室やお庭等、館内各所に何人もの鷗外さんやその家族が出現します。登場人物全員に会えた方は、プレゼントがもらえるオマケつき!鷗外さんとその家族を探して館内をめぐってください。
2月9日(木) 14:00 ~ 16:00 文の京ワークショップ <b>「鷗外を編む! at モリキネニットカフェ」</b> 講師：せきもとともこ氏(NekoKnit・編み物作家) 会場：モリキネカフェ 料金：1000円(材料費込・お茶付) 定員：8名 申込締切：1月25日(水) モリキネカフェがニットカフェに!お茶を飲みながら、鷗外の顔を編みぐるみでつくり、プローチに仕上げます。初心者歓迎!
3月5日(日) 14:00 ~ 16:30 新・観潮楼歌会 <b>「五人の歌人による公開歌会 IV」</b> 講師：大井 学氏、鯨井可菜子氏、佐藤弓生氏、堂園昌彦氏、東 直子氏(全て歌人) 会場：講座室 料金：500円 定員：50名 申込締切：2月24日(金) 会派も年齢もバラバラの5人の歌人たちが、題詠、テーマ詠、自由詠、即詠に取り組み、公開で歌会を行います。参加者も選歌で歌会に加わります。

## ◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで、親子プログラムおよび親子向け推奨のプログラムに関しては親子一組につき1通)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①往復はがき** 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号を、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②Eメール** 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

## 編集後記

2016年は夏日漱石の没後100年にあたります。また2017年には漱石生誕150年を迎えることもあり、全国各地で漱石を顕彰する事業が展開されています。新宿区の漱石山房記念館の開館も待たれるところです。

一方、鷗外は2017年が没後99年にあたります。当館では、2017年2月2日より鷗外の終焉に関するコレクション展を開催します。1922年7月9日に、萎縮腎で命を落とした鷗外。死に直面した鷗外が、一体どのような心持ちで最期の日々を過ごしていたのかを紹介します。また同展では、鷗外没後2週間たらない内に企画された、『鷗外全集』刊行に関する資料も展示。初の『鷗外全集』刊行の経緯を、編集委員の中心人物であった与謝野寛の書簡を中心に辿ります。

そして鷗外顕彰と言えば、森鷗外記念会の存在を欠くことができません。記念会は、1965年より研究誌『鷗外』を定期刊行。2017年1月にはついに100号を迎えます。鷗外が死してもなお、人々の記憶から薄れなかったのは、『鷗外全集』を手掛けた与謝野寛のように、鷗外を親しみ敬う人々の尽力によるのではないのでしょうか。鷗外終の棲家である観潮楼跡地、文京区立森鷗外記念館もまた、そういった人々に支えられ、鷗外顕彰事業を継続しています。

## 交通案内



### ●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分

### ●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
  - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
  - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511  
 URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00 ~ 18:00 (最終入館は17:30)

休館日 毎月第4次曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、  
 年末年始(12月29日~1月3日)、及び展示替期間、燻蒸期間等

文京区立  
**森鷗外記念館**  
 Mori Ogai Memorial Museum